

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	帝京平成大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	テイキョウヘイセイダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F113310102911
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	ベトナム・インターンシップ
	学部・研究科等名	現代ライフ学部観光経営学科
	担当教職員名・役職	一柳峻夫：准教授
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	17
	受入企業等数	3
	受入企業等名	近畿日本ツーリスト、中野区役所、豊島区役所
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ 6.低学年（大学1年次～2年次程度）からのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	インターンシップを通じて旅行会社や制作会社と連携し、大学・中野区・豊島区のPR企画を計画、提出し、ベトナムで開催されるジャパンベトナムフェスティバルにてブース発表を行い、地域PRや広報を経験する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部2年 大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	本学ではインターンシップ科目として「ベトナムインターンシップ」を配置している。本講義を通じて「外国で働くこと」「外国の人と共に働くことの意味」「グローバルな仕事に就くために特に必要な知識やスキル」を、ジャパンベトナムフェスティバルに参加し、大学・中野区・豊島区のPR・広報を外国人（ベトナム）向けに行う企画の計画・実施を通じ、学修する。インターンシップ実施後は報告書を作成し、振り返りを行う。

要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	ベトナムの基礎知識の修得、自治体でのプレゼンテーション、学内発表会
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
要素③	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	ジャパンベトナムフェスティバルでのブース設営の準備を行う、PR自治体でのフィールドワーク、プレゼン資料の作成の情報収集、下調べを行う。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	ジャパンベトナムフェスティバルでの体験を振り返り、成果をまとめ、自治体・大学に報告する。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	科目担当教員を中心に、実習前、実習中、実習後と学生の指導に当たり、実習中の様子や終了後の報告会の内容をもとに学生へとフィードバックを実施する。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	インターンシップ報告会を行い、報告書を作成、インターンシップ全体の振り返りを実施。ブースにて実施したプレゼンテーションの評価や、実習終了後のフィードバックを実施。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	

	5-3.上記回答内容に関する詳細	事前事後学習、フィールドワーク、イベント本番などを合わせて合計5日間以上のインターンシップとなっている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
6-3.上記回答内容に関する詳細	自治体からのアドバイスをいただきながら、学生はプレゼンテーションに準備を進め、旅行会社や制作会社と連携しながらイベント運営にも携わる。	
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://unipa.thu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml	
問い合わせ先	大学等名	帝京平成大学
	担当部署名	国際交流センター
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	米山幸作
	電話番号	03-5843-3407
	メールアドレス	k.yoneyama@thu.ac.jp